

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18482

研究課題名(和文)日本のマンガにおける北欧神話受容史の萌芽研究

研究課題名(英文)Exploratory Research on the Reception of Old Norse Mythology in Japanese Manga Media

研究代表者

伊藤 盡 (Ito, Tsukusu Jinn)

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：80338011

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文):本研究の成果は3つ存在する。第1に国際学会・海外の大学での講演会、海外でのシンポジウムでの発表を通じて、日本の漫画作品が中世北欧に関する歴史学、文学、文化史的研究の場で十分な学問的関心を集める価値を持つことを証明したこと。第2に漫画作品の中での北欧神話受容の形式に3～4のタイプに分類されうることを実証的に提示したこと。第3にデータベース化に伴い、画像データを47あまりの作品から収集し、「北欧神話」の受容研究の資料の基盤を作ったことである。以上の成果の中から、国内での雑誌掲載の論文1件がある。また、現在は、海外の出版社Brepols社より論文掲載の準備を整えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、学術的には、北欧神話/中世北欧史の受容研究の重大かつ大きな要素を加える貢献を果たしたことに意義がある。特に欧州文化の歴史的な受容研究は従来欧米圏に限られていたが、それを東アジアまで研究範囲を広げる価値や、非西欧文化圏における受容過程での独自の解釈が視覚的に提示され、西欧人にとっても関心が高まる研究素材を提供できた。一方、シンポジウムや講演を通じて、視覚芸術として神話を表現することの普遍性を広く知らしめ、日本の輸出文化にまで成長した漫画メディアの特性を海外に紹介し、日本の漫画作品の多様性、将来の文化交流への可能性を国内外に訴えたことは、社会的に大きな意義を持つ。

研究成果の概要(英文):This research project has accomplished three dimensions concerning academic interest in reception studies of Old Scandinavian mythology. First, we have proven that the manga works by Japanese authors deserve serious academic attention through 12 paper presentations at international conferences, symposia, and university lectures. Second, the styles of reception of Old Norse Myth into Manga can be classified either three or four groups, though we need further studies and discussions to reach an agreement of the interpretation. Third, through the database of manga images and illustrations with Norse Myth motifs taken from more than 47 manga works, we contribute to the reception studies providing visual resources with annotations for scholars around the world. We are now preparing for publication of our papers read at those conferences during the research period, from a publisher in Europe.

研究分野：中世北欧文学

キーワード：北欧文化受容 マンガ研究 北欧神話研究 中世北欧史 作家研究 受容史 『ヴィンランド・サガ』研究 ワグナー研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)研究開始以前において、北欧神話受容研究は英国 / 米国、ドイツ、北欧といった北欧神話受容の伝統が長く認知されてきた地域に関する研究に限定されていた(O'Donoghue 2007, Arnold 2011)。その後、Itó (2015)で日本のマンガ、Ferrari (2016)の論文でイタリアの comics に中世北欧文学 / 歴史が反映されていることが述べられ、本研究当初に上梓された Jón Karl (2017)において日本のマンガが初めて積極的に論評されたことで日本のマンガにおける北欧神話受容研究への入り口が開いたことを意味した。しかし、国際的には日本のマンガ作品への入手は容易ではなく、また文化的に疎遠な日本での北欧神話受容研究の意義については認知が不足している状態であった。

(2)2018 年に行われる予定であった第 17 回国際サガ学会において、伊藤 (2018)の発表が計画され、それに合わせて本研究プロジェクトチームによるサガ学会会場でのシンポジウムの開催をアイスランド大学側に提案し、その実現に向けて準備が始まった。

2. 研究の目的

(1)1. に述べられた背景から、本研究は国際的に研究素材を提供する素地として日本のマンガにおける北欧神話モチーフを表現した画像データのデータベースの構築を目指した。

(2)データベースに意味を持たせる上でも、日本のマンガメディアにおける北欧神話 / 中世北欧文学 / 歴史の受容の実態を学術的に発表 / 紹介をすることで、本研究のデータベースの意義を国際的に知らしめることを目指した。

3. 研究の方法

(1)日本におけるマンガの画像データを収集し、それらをデータベース化し、データの整理を行おうとともに、画像の背景情報をデータベースに付加することで、研究に寄与することを目指す。

(2)画像データと背景情報をデータベースにおいて整理 / 提示するためのインターフェイスの構築をする。

(3)画像データの背景情報について、文献学的、歴史学的、文学的、メディア情報論的解釈・説明・解説を加えることで、日本から海外に情報を発信し、海外からのフィードバックを受け取る。

4. 研究成果

(0) 本研究の成果は3つ存在する。第1に国際学会・海外の大学での講演会、海外でのシンポジウムでの発表を通じて、日本の漫画作品が中世北欧に関する歴史学、文学、文化史的研究の場で十分な学問的関心を集める価値を持つことを証明したこと。第2に漫画作品の中での北欧神話受容の形式は、3～4のタイプに分類されうることを実証的に提示したこと。第3にデータベース化に伴い、画像データを47あまりの作品から収集し、「北欧神話」の受容研究の資料の基盤を作ったことである。以上の成果の中から、国内での雑誌掲載の論文1件がある。また、現在は、海外の出版社 Brepols 社より論文掲載の準備を整えている。

(1)-1 本研究の実績は、海外の大学での講演3件、海外の大学でのシンポジウム開催1件(アイスランド大学人文学部日本語学科との共同研究)、国内でのシンポジウム開催2件(立命館大学での開催及び立教大学文学部との共同開催)、国際学会での発表2件。詳細は以下のとおり:

・講演;海外 伊藤 暁 'Japanese Reception of Old Norse Mythology: The Application of the Norse Myths in the Far East' (2018年3月6日於アイスランド大学); 松本 涼 'The Reception History of Norse Mythology and Saga Literature in Japanese Popular Culture' (2018年5月2日於グライフスヴァルト大学) 伊藤 暁 'From Black-Haired Brynhildr to a Brocade Haired Norn: Norse Myths in Japanese Manga' (2018年12月13日於ロンドン大学ユニヴァーシティ・コレッジ)

・シンポジウム;海外 Magnað Manga (アイスランド大学文学部日本語学科 Gunnella Þorgeirsdóttir 教授と Stofnun Árna Magnússonar の Jón Karl Helgason 教授の協力を受けた共同開催; 2018年8月16日於アイスランド大学); 伊藤 暁 (司会) 'Opening Speech: An Introduction'; ジェシカ・パウエンス・杉本 'The Nordic Myths in Girls Manga-- Ashibe Yuho's *Crystal Dragon*'; 松本 涼 'Rewriting the Myths and Culture: ONE PIECE, The Mythical Detective Loki and Saint Young'; 井口 篤 'Somewhere Not Here: Utopianism in Makoto Yukimura's *Vinland Saga*'. 国内 「日本のファンタジー文化における西洋中世のイメージの源泉と受容」(2018年11月10日於立命館大学); 松本 涼 「ヴァルハラは理想か? 現代日本のフィクションと北欧神話」 「トークセッション『ヴィンランド・サガ』から見たアイスランド」(2019年11月4日於立教大学文学部); 松本 涼 「アイスランドのサガ資料の使い方・環境」; 伊藤 暁 「『ヴィンランド・サガ』に見る「北欧奴隷」の表現の系譜」

・海外学会発表: 伊藤 暁 'From a Time-leaper 'Urdr-Verdandi-Skuld' to a *Ragnarok* Prophesied in a High-School Class Room: Varieties of Old Norse Mythological Gimmicks in Manga', 第17回国際サガ学会(2018年8月17日於アイスランド大学) 伊藤 暁 'A Reception Study of an Interpretation of

Scandinavian Slave-issue in Post-war Japan: From the Japanese Cartoon Version of *Vicke Viking to Vinland Saga*, Slaves, Serfs and Free Labour in Medieval Northern Europe: Interdisciplinary Conference (2019 年 10 月 26 日於ボン大学)

(1)-2 バウエンス-杉本 (2018)によれば、あしべゆうほ 『クリスタル・ドラゴン』における北欧神話受容は、少女マンガというジャンル媒体の特性を如実に示すものであり、北欧神話 / 中世北欧に関するストーリーテリングや主人公の描き方に、日本人作家が想定する読者層にとって受け入れやすい表現を施しているとした。

(1)-3 井口(2018)によれば、中世アイスランド～中世北欧～中世イングランドを舞台にした幸村誠『ヴィンランド・サガ』に描かれる北欧神話的 / 中世北欧文学的に描かれる理想郷は、今日的な意味での utopianism を表すものとして翻案されていると解釈された。

(2)-1 北欧神話を受容するマンガ作品は、松本(2018a, 2018b, 2019)によれば3つの分類が可能である。a「歴史的フィクション」、b「『ニーベルングの指環』翻案」、c「名前の借用」である。松本は46作品について、aが7作品、bが4作品、cが35作品としている。

(2)-2 北欧神話を受容するマンガ作品は、伊藤 (2018)によれば4つの分類が可能である。A) Works of Medievalism, B) Works of Sci-Fi, C) Works of Present-Day Japan, D) Liberally Re-told Version of Norse Myths。しかし、A-C のそれぞれにおいて、Norse Mythology の主要なモチーフの一つである Ragnarok への解釈が施されてストーリーの中に組み込まれる場合もあり、D の区分は A～C の区分とは異なる下位区分にする可能性もあるとした。

(3)-1 論文発表:国内 松本涼が「ヴァルハラは理想か? :現代日本のフィクションと北欧神話」を立命館言語文化研究 31(1), 189-202. 論文発表:海外①～④現在、アイスランドでのシンポジウムと研究発表の内容をオックスフォード大学の Minjie Adrian Su と伊藤盡の共編によって出版準備進行中。

(3)-2 マンガ作品は47作品から画像データを収集した。画像データはのべ300枚を超えており、現在も随時増加している。

< 引用文献 >

O'Donoghue, Heather 2007. *From Asgard to Valhalla: The Remarkable History of the Norse Myths*. I. B. Tauris.

Arnold, Martin 2011. *Thor: Myth to Marvel*. Continuum.

Itó, Tsukuru Jinn 2015. "Ásgeir", A Japanese Imagined Lady of the North: A Manga Narrative and Its Space'. *The Sixteenth International Saga Conference, Saga and Space: 9th-15th August 2015, University of Zurich and University of Basel*, Preprints of Abstracts. Ed. Jürg Glauser, et al. Schweizerische Gesellschaft für Skandinavische Studien, 145-46.

Ferrari, Fulvio 2016. 'Sagas as Sequential Art: Some Reflections on the Translation of Saga Literature into Comics'. Ed. Judy Quinn and Adele Cipolla. *Studies in the Transmission and Reception of Old Norse Literature: The Hyperborean Muse in European Culture*. Brepols, 327-45.

Jón Karl Helgason 2017. *Echoes of Valhalla: The Afterlife of the Eddas and Sagas*. Tr. Jane Victorial Appleton. Reaktion Books.

松本涼 2018a. 'The Reception History of Norse Mythology and Saga Literature in Japanese Popular Culture' (Universität Greifswald, 2018 年 5 月 2 日).

松本涼 2018b. 「ヴァルハラは理想か? :現代日本のフィクションと北欧神話」. シンポジウム「日本のファンタジー文化における西洋中世のイメージの源泉と受容」(2018 年 11 月 10 日於立命館大学).

松本涼 2019. 「ヴァルハラは理想か? :現代日本のフィクションと北欧神話」を立命館言語文化研究 31(1), 189-202.

伊藤盡 2018. 'From a Time-leaper 'Urdr-Verdandi-Skuld' to a Ragnarok Prophesied in a High-School Class Room: Varieties of Old Norse Mythological Gimmicks in Manga', 第 17 回国際サガ学会 (Háskóli Íslands, 2018 年 8 月 17 日).

ジェシカ・パウエンス・杉本 2018. 'The Nordic Myths in Girls Manga-- Ashibe Yuhō's *Crystal Dragon*' (Háskóli Íslands, 2018 年 8 月 16 日).

井口篤 2018. 'Somewhere Not Here: Utopianism in Makoto Yukimura's *Vinland Saga*' (Háskóli Íslands, 2018 年 8 月 16 日)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 伊藤 盡
2. 発表標題 Japanese Reception of Old Norse Mythology: The appreciation of Norse myths in the Far East
3. 学会等名 Fyrirlestrar Midaldastofu 2018–2019 (University of Iceland) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本 涼
2. 発表標題 The Reception History of Norse Mythology and Saga Literature in Japanese Popular Culture
3. 学会等名 Lecture Series; Storyboards: Borderlands (Universitaet Greifswald) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 盡
2. 発表標題 From a Time-leaper “Urdr-Verdandi-Skuld” to a Ragnarok Propheted in a High-School Class Room: Varieties of Old Norse Mthological Gimmicks in Manga
3. 学会等名 17th International Saga Conference (University of Iceland) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 盡
2. 発表標題 From Black-haired Brynhildr to a Brocade-haired Norn: Norse Myths in Japanese Manga
3. 学会等名 UCL Medieval Scandinavian Seminar (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本パウエンス ジェシカ
2. 発表標題 The Nordic Myths in Girls Manga: Ashibe Yuho 's Crystal Dragon
3. 学会等名 Magnad Manga (University of Iceland) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本 涼
2. 発表標題 Rewriting the Myths and Culture: ONE PIECE, The Mythical Detective Loki and Saint Young
3. 学会等名 Magnad Manga (University of Iceland) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井口 篤
2. 発表標題 Somewhere Not Here: Utopianism in Makoto Yukimura 's Vinland Saga
3. 学会等名 Magnad Manga (University of Iceland) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 壺
2. 発表標題 Magnad Manga: Opening Address
3. 学会等名 Magnad Manga (University of Iceland) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 壘
2. 発表標題 Japanese Reception of Old Norse Mythology: The Appreciation of Norse Myths in the Far East
3. 学会等名 Centre for Medieval Studies Lecture Series 2017-2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Fyrirlestrar Midaldastofu Haskola Islands https://midaldastofa.hi.is/uncategorized/fyrirlestrar-midaldastofu-19/ Magnad Manga https://www.hi.is/vidburdir/magnad_manga Magnad Manga: Conference on Manga Studies http://vigdis.hi.is/magnad-manga-conference-on-manga-studies/ Seminar Series https://siegeoflondon.wordpress.com/seminar-series/ "Storyboards: Borderland" https://geschichte.uni-greifswald.de/en/institute/information/aktuelles/#collapse1198339 Japanese Reception of Old Norse Mythology http://midaldastofa.hi.is/uncategorized/fyrirlestrar-midaldastofu-19/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 涼 (Matsumoto Sayaka) (40733150)	福井県立大学・学術教養センター・講師 (23401)	
研究分担者	杉本 B. J e s s i c a (Sugimoto-Bauwens Jessica) (60434750)	龍谷大学・国際学部・准教授 (34316)	
研究分担者	井口 篤 (Iguchi Atsushi) (80647983)	慶應義塾大学・文学部(日吉)・准教授 (32612)	